

- ② 妊娠応援助成を拡充
- ③ かなちゃんバスの助成を開始
- ④-⑤ **特集** 生物多様性を守る
未来につなぐ「厚木の生き物」
- ⑥-⑧ 街の話題/コラム/お知らせ

デジタル広報配信 アプリは「マチイロ」「カタログポケット」 ネットは「マイ広報紙」

自然と生きる



生物多様性とは

多くの生物が豊かな個性を持ち、つながりを持って共存すること。バランスが崩れると、自然環境や私たちの生活に悪影響が及びます。



■「みんなの生物多様性」

市内にすむ生物や環境保全に向けた取り組みなどを、分かりやすくまとめています。



詳細はこちら

《4・5面に関連記事》

環境政策課 ☎2512749

6月は環境月間です。人と生き物が共に過ごせるよう、山や川、田園などの身近な自然に目を向けてみましょう。

若葉が芽吹き、森が鮮やかさを増す季節。七沢の森林では、木の中腹に設置した巣箱にすみ着いたフクロウが子育てをしています。ひなの成長を見守りながら生態を調査するのは、環境保全団体の「森里」。人との関わりが薄れた森林や農地に再び手を加え、生き物が暮らしやすい里山環境を整えています。

市内には現在、5701種の動物と1766種の植物が確認されています。市はこの豊かな自然を守るようと2024年、生き物や植物の減少を防いで生態系の回復を目指す「ネイチャーポジティブ宣言」を実施。市内の企業や団体と協力し、多くの生物と豊かな環境を次世代につなぐ取り組みを進めています。

Zoom Up

早期不妊検査費の助成を県内初導入

妊娠応援助成を拡充

妊娠を希望する人を後押しするため4月から、早期不妊検査と不育症治療への費用助成を新たに始めました。昨年度から実施している不妊治療費への助成も継続。検査から治療までを支援し、誰もが安心して出産・子育てできる環境をつくります。

国内では、4・4組に1組の夫婦に不妊検査・治療の経験があるといわれています。不妊治療費の助成は、妊娠を希望する人の経済・心理的な不安を減らすために昨年度から導入。年間で延べ142組が利用しました。4月からは、新たに早期不妊検査と不育症治療の費用助成も追加し、支援の幅を広げていきます。

早期からの一歩を

早期不妊検査費の助成は、4月以降に夫婦が受けた精液検査や内分泌検査、超音波検査などが対象。申請は1



夫婦間の理解と協力が大切

回限りで、最大3万円を助成します。検査開始日時点で妻の年齢が43歳未満で、夫婦共に検査を受けていることが条件です。妊娠後に流産や死産を繰り返す不育症の治療費助成も新たにスタート。保険適用外の治療が対象で、治療開始の初年度から通算で5年度にわたって申請が可能です。助成額は費用の2分の1で、最大30万円を年度ごとに交付します。

昨年度に引き続き、医療保険適用の不妊治療と併せて実施した先進医療費に対する助成も実施しています。助成額は1回当たり最大10万円で、費用の7割を助成します。治療終了から6カ

月以内に申請が必要です(左下欄参照)。

切れ目のない支援を

妊産婦が抱える不安やストレスを解消するため、助産師や保健師などによる相談体制も充実させています。出産を控える夫婦を対象とした育児体験教室や産後の生活に関する講座など、妊娠中から出産後までを切れ目なくサポートしています。

今後も、妊娠を希望する全ての夫婦を支援し、安心して子どもを迎えられる環境づくりを進めていきます。

☎子ども家庭センター ☎25-2607

悩みを抱えずに

市立病院 産婦人科
河野 雅美 医師 (30)



国の統計によると10人に1人の赤ちゃんが、体外受精などの生殖補助医療で誕生しています。不妊に至る要因は、持病の有無や年齢などさまざま、不妊に悩む夫婦の約半数が男性にも原因があるといわれています。

治療期間は、数カ月で終わる人もいれば、3年以上かかる人もいます。治療を受けた全ての人がかどもを授かるわけではなく、治療に臨む際は夫婦間の協力が大切です。通院は、多い人で週に2、3回。心身共に疲労が重なるため、職場や家族など周りの方の理解も大切です。

治療を検討する際は、治療法や助成制度などを夫婦で一緒に考えるのが第一歩です。不安や悩みは抱え込まず、気軽に医療機関へ相談してください。

各種助成金の概要

妊娠を希望する全ての方の不安を解消するため、検査から治療までを継続的に支援します。

早期不妊検査費	不妊治療費	不育症治療費
<p>不妊症の診断のため、夫婦で共に受けた不妊検査費を助成。</p> <p>【対象の検査】 精液・内分泌検査、超音波検査など</p> <p>【助成対象者】 検査開始日に妻の年齢が43歳未満の夫婦</p> <p>助成金額 最大 3 万円 夫婦一組で1回まで</p>	<p>医療保険適用の生殖補助医療と併せて実施した先進医療費を助成。</p> <p>【対象の治療】 子宮内膜刺激胚移植法、子宮内膜擦過術など</p> <p>【助成対象者】 医療保険適用の体外受精などと併せて先進医療を受けている夫婦</p> <p>助成金額 最大 10 万円/回 費用の10分の7。治療終了から6カ月以内に申請が必要</p>	<p>妊娠後、流産や死産を繰り返す不育症の治療費を助成。</p> <p>【対象の治療】 不育症診断後に受けた医療保険適用外の治療</p> <p>【助成対象者】 治療を受けている本人、配偶者またはパートナー</p> <p>助成金額 最大 30 万円/年 費用の2分の1 年度ごとに申請可能</p>

☎子ども家庭センターや市HPにある申請書などを直接または郵送で〒243-8511子ども家庭センター☎225-2607へ。

詳細はこちら



こどもの未来を支える

保育のしごと 就職フェア



市内の保育施設で働く保育士が、園の特色を紹介しながら就職のアドバイスをします。

日時 **7月11日 13~16時**

会場 あつぎ市民交流プラザ

内容 施設職員との就職相談、市職員による助成金の制度説明など

対象 市内の保育施設に就職を希望するまたは興味のある方

※託児あり(1歳~小学3年生10人)

費用 無料

☎不要。託児を希望する場合は6月22日までに電話で保育課へ。先着順。



詳細はこちら

☎保育課☎225-2768



気軽にバスに乗って外出できるように

Zoom Up

高齢者の外出を支援

かなちゃんパスの助成を開始

高齢者の外出を後押しするため、神奈川中央交通が発行する定期券方式のバス割引乗車券の助成を6月から開始します。助成額は最大で2万円。日常生活や健康維持に欠かせない移動手段の確保を支援します。

年を重ねると身体能力が低下し、車や自転車などの運転に危険が生じます。自動車運転免許証の自主返納も増える中、高齢者にとって移動手段の確保は大きな課題となっています。

神奈川中央交通（神奈中）ではこれまで、現金100円で1回乗車ができるバス割引乗車券「かなちゃん手形」を発行。市では一人当たり7800円を助成し、年間1万人の外出を支援してきました。新たに誕生した「かなちゃんパス」は、定期券方式でスマートフォンアプリ「ライド・パス」または交通系ICカードで発行。1年券5万4千円に対し、2万円を助成します。

乗降時の支払いは不要

かなちゃんパスは、乗降時の支払いが不要。アプリ画面の提示またはICカードのタッチで利用できます。神奈中バスの一般路線全線で利用ができ、日常生活に加え、遠方への外出のきっかけとしての役割も期待されます。

助成に当たっては、市から対象者に送られる申請書を提出し、助成券を事前に受け取る必要があります。購入は

アプリ、市内3カ所の神奈中営業所やサービスセンターで可能。スマートフォンを使ったアプリでの購入を支援するため、神奈中職員による説明会も開催されます。

既にかなちゃんパスを利用している小川百合子さん（70・温水）は「降車時に小銭を用意する手間が省けて利用しやすくなった。いろいろな場所に出かけたい」と話します。

高齢者の生きがいがぐんぐん

高齢者の外出支援では他にも、400円分のタクシー利用券を48枚交付する事業も実施。「運転免許証を持っていない」などの条件を満たす70歳以上が対象で、かなちゃんパスの助成といずれか一方を選択できます。市内の保養施設や映画館などで利用できる「シルバーチケット」も交付しています。生き生きとした生活を送ることは、疾病や認知症などの予防につながります。これからも誰もが生きがいを持ち、いつまでも自分らしく生活できる環境を整えていきます。

☎福祉総合支援課 ☎25-2220

かなちゃんパスで出かけよう

助成開始 6月17日～

対象 2026年1月1日現在、市内在住で年度内に70歳以上の方
※対象者に5月下旬頃、案内通知と申請書を郵送（高齢者タクシー利用券交付者などは対象外）。

発行媒体 スマートフォンアプリまたは交通系ICカード

助成額

券種	定価	助成額	自己負担額
1年券	5万4000円	2万円	3万4000円
6カ月券	2万8500円		8500円
3カ月券	1万5000円	1万円	5000円

※年度内1種類のみ利用が可能。
3カ月券は年度内2回申請可能。

詳細はこちら



マイホームの購入を支援

若年代から高齢者までが互いに支え合えるまちづくりを目指し、住宅の取得費用などを補助します。



定住促進子育て世帯住宅取得支援事業補助金

〈対象〉世帯主または配偶者が50歳未満で、中学生以下の子どもがいる世帯

補助額 20万円

※地域・在勤加算で最大40万円

親元近居・同居住宅取得等支援事業補助金

〈対象〉市内居住の親世帯と近居・同居を始める子世帯

補助額 取得＝同居60万円、近居40万円
改修＝対象経費の1/10（上限20万円）

※地域・若年・子育て・在勤加算で最大100万円

いずれも☎市HPなどにある申請書を直接または郵送で〒243-8511住宅課へ。



詳細はこちら

☎住宅課 ☎225-2330

かなちゃんパスの購入手続きの流れ

スマートフォンアプリ



市から届いた申請書に購入方法を記入して提出

助成券が届いたら、アプリで購入申請（利用開始日も設定）

審査（5日程度）

支払い方法の案内メールが届く

支払い終了後、設定した利用開始日に発行

無料説明会

スマートフォンの操作が不安な方に向け、神奈中職員が説明します（申請時に申し込みが必要）。

■日にち・会場

6月17～19日 荻野運動公園

6月22～24日 老人福祉センター寿荘

■時間（1日4回）

①9時～②10時30分～

③13時～④14時30分～（各回90分）

交通系ICカード



市から届いた申請書に購入希望日を記入して提出

後日に送付される助成券に記載された日時に窓口で購入

その場で発行

神奈中窓口での購入（事前予約制）

■購入場所

・本厚木、愛甲石田駅前サービスセンター

・厚木北営業所（上荻野3596-1）

■期間

6月17日から

※窓口によって受付時間が異なります。

特集 生物多様性を守る



未来につなぐ

「厚木の生き物」

森にすむシカやタヌキ、水辺にすむホタルやカエル、四季折々に咲く草花、貴重な湿地植物。私たちのすぐそばには、多様な命が息づいています。特集では、「厚木の生き物」を守り、次の世代へとつなぐべく、人々の姿を追いました。

◎環境政策課 ☎25-2749

自然を守る一歩は「知る」と

環境保全団体「森里」

柔らかな日差しに包まれた七沢の森。生い茂る木々の間から、鳥のさえずりが聞こえてきます。緑に囲まれ、野鳥の生息環境などを調べるのは小林夏子さん(29・鷲尾)。里山の保全や生き物の生息調査などに取り組む環境保全団体「森里」の代表です。

自然全体を守る

幼い頃から傷ついた野生動物を救うボランティア活動を続けてきた小林さんが、森里を立ち上げたのは4年ほど前。野生動物を守るためには、生息環境そのものの保全が必要だと気付いたのがきっかけでした。現在は、18人の仲間と共に里山の再生と生態系の回復に取り組んでいます。人の手による管理が行き届いた里山は、さまざまな生き物が暮らせる貴重な場所です。しかし、耕作放棄などが進むと、里山は縮小の一途をたどります。小林さんは「一度荒れてしまった場所を豊かな自然環境に戻すのは本当に大変だった」と振り返ります。

活動に取り組む中で、特に力を入れているのが鳥類の保全や調査です。国の許可が必要な「標識調査」を取り入れ、野鳥に数字や文字が刻まれた環境省の足環を着けて自然へ戻しています。



個体識別のためフクロウのひなに足環を着ける



小学生から主婦まで幅広い世代が活動に参加



「環境の変化を生き物が教えてくれる」と小林さん

野鳥の状態や種類の増減などから、管理地の環境を把握します。「鳥たちの命を借りて環境保全に取り組んでいるので、協力者である鳥たちに好ましい成果を還元する責任がある」と力強く話す小林さん。調査を続けて4年。管理した場所を利用して続けている鳥たちの存在や、3年以上前に放した渡り鳥が再び戻ってきていることも分かっています。

野鳥の保全に手応え

鳥たちの生息環境を整える道のりは、想像以上に時間がかかるものでした。それでも地道な作業を重ねるうちに、変化の兆しが現れてきました。活動の一つとして設置した巣箱に、市内で生息数が減少しているフクロウが居る構えが。森に暮らす多くの生き物にとって、木の幹にできる穴の空いた「樹洞」は必要不可欠です。近年の森林開発などによる樹洞の不足を補うために設置した巣箱には、内部を守るためのカメラを設置。どんな生き物が巣箱を利用するのかを確認しながら、設置の高さや向き、巣材について試行錯誤を重ねています。

5月、巣箱で育ててきたフクロウのひなが巣立ちの時期を迎えました。森里では巣立ち前の限られた期間で、ひなの健康チェックや足環の装着、DNAの分析などを実施。命を預かる調査は、独特の緊張感が漂う瞬間です。現場で慎重な作業を終えた小林さんが、親鳥の戻ってきた姿を見届けて安堵の表情を浮かべました。「足環を

着けた鳥たちとの再会や新たな生き物に出会えた時が何よりうれしい」と目を細める小林さん。実を結んだ活動に、確かな手応えを感じています。

地道な活動を大きな力へ

森里の活動方針は、「一人一人のやりたいことを大切にすること」。さまざまな生き物に合った巣箱の設置も、メンバーからの提案でした。小林さんは、同じ志を持つメンバーの育成にも注力しています。大学生の西川樹さん(23)は、獣医師になって野生動物の保全に関わることを目指しています。「生態系を守るための活動は、想像をはるかに超える難しさ。現場に来て、初めて気付けたことは多い」と話す西川さん。小林さんの下で、将来に向けた経験を一つ一つ積み重ねています。

身近な自然の魅力を伝える一環として、小林さんが日頃から心掛けていたのが情報発信です。「知ってもらう」ことが、行動に移してもらおうと原動力になると信じ、広報紙を作成して地域へ配布するほか、講習会の開催やSNSの活用にも力を入れています。地道な活動により最近では、地域で声を掛けられたり、イベントの参加者が増えたりと、関心の広がりを実感しています。「一人一人に、自然のことを考えてもらうきっかけをつくりたい。そして、厚木に広がる自然の好きなところを一つでもいいので見つけてほしい。根強い取り組みを大きな力へと変えるべく、小林さんは雄大な自然と向き合いながら挑戦を続けます。



野鳥に足環を着けて自然に戻す



観察会や講習会など普及啓発に力を注ぐ



小林さんとフクロウの様子を確認する西川さん(右)

自然に触れ合う体験を

あつぎこどもの森クラブ

「なんとという生き物だろう」「初めて見た」。日曜の屋下がり、あつぎこどもの森公園に張られたテントから弾んだ声が聞こえてきます。展示された花や虫を観察し、子どもたちが目を輝かせながら生き物探しに走り出します。「あつぎこどもの森クラブ」では観察会を開き、子どもたちが生き物や自然と触れ合うきっかけをつくっています。

里山を生かす

井上允さん(78・上荻野)が代表を務めるクラブは、公園の完成に合わせて10年前に発足しました。32人のスタッフで希少な植物や生き物の観察、田畑を使った農業体験などを展開。絶滅危惧種を含む多くの水生生物や動植物が生息する園内の里山環境の保全にも精力的に取り組んでいます。

近年、虫を怖がり触れなかつたりすることも増えてきていることに危機感を持った井上さん。何かできることはないかとみんなで考えたのが、園内にある資源を有効活用した「いきものガイド」でした。季節ごとに姿を見せる生き物や植物を展示し、子どもたちが気になった生き物があればスタッフと一緒に園内を探索。図鑑や顕微鏡を使って観察を手伝うなど、自然に親しみ楽しさを伝えています。

考える時間を大切に

ガイドスタッフを務める楠友友さん



「仲間が増えれば」と井上さん

「子どもたちが、公園で体験したことを思い出し、心の支えとなる何かを始めるきっかけになればうれしい」。井上さんたちは、田んぼでの米作りや森の中のホタル観察会などを次々と企画します。「自然の中で思い切り体を動かしながら、優しさと豊かな感性を育ててほしい」と願いを込める井上さん。これからの心地よい距離感で、子どもたちの可能性を広げていきます。



園内で見つけた生き物を見せる楠さん(右)



季節ごとにパンフレットなどを作成



いきものガイドは第1・3日曜日に開催



虫や植物などを幅広く展示

あつぎこどもの森公園が自然共生サイトに認定

あつぎこどもの森公園が環境省の進める「自然共生サイト」に認定され、国際データベースに登録されます。◎環境政策課 ☎225-2749

自然共生サイトとは

企業や自治体などによる、自然環境の継続的な保全活動を認定する制度。認定期間は5年間。

今後の取り組み

生き物や植物の減少を防いで生態系の回復を目指す「ネイチャーポジティブ」(自然再興)の実現に向け、生態系の保全と回復に力を入れます。

〈内容〉

- ①特定外来種の駆除
②生き物がすみやすい環境の整備



詳細はこちら

広報あつぎ運動企画
図書展 生物多様性と厚木の生き物

日時 6月1~30日 9~19時(15日を除く)
場所 中央図書館
内容 生物多様性に関する図書の貸し出しと「森里」「こどもの森クラブ」の活動内容を展示
◎中央図書館 ☎223-0033

消防士の仕事を間近で体感

厚木消防署でオープンデー



資機材に触れる子どもたち

普段は立ち入れない消防署の内部や車両を見学・体験できる「厚木消防オープンデー」を、5月に開催しました。

イベントは消防業務を身近に感じてもらうことで、救急車の適正利用や火災予防への意識を高めてもらうと開催。見学のほか防火服の着装体験やミニ消防車に乗っての記念撮影、スタンプラリーなどが楽しめ、子どもたちが目を輝かせて楽しみました。

参加した大内俊明さん(50)は「子どもの夢が消防士なので来た。24時間体制で動いてくれていることを実感した」と話し、息子の捺生さん(6)は「スタンプラリーが楽しかった。初めて見るものもいっぱいあった」と楽しそうに話しました。

子どもたちの成長を願って

七沢でせんみ風揚げ



真剣なまなざしで色を塗る子どもたち

七沢に伝わる「せんみ風」を作って揚げるイベントが4月、玉川公民館などで開かれました。約50人が参加し、ものづくりや地域の交流を楽しみました。

当日は、七沢せんみ風保存会の手ほどきで、たこの色塗りがスタート。たこに赤や黄、ピンクなどの色が入るとたこ揚げ大会が始まり、空高く揚がったたこに大きな歓声が巻き起こりました。

参加した黒木陽葵さん(4)は「難しかったけれど、遠くへ走ったら高く飛んで楽しかった」と満足げに話しました。保存会の前場政行会長(87)は「広く知られる文化にしていきたい」と笑顔。保存会では玉川小学校の卒業制作でたこ作りを教えるなど、地域の伝統をつないでいきます。



花と緑に親しむ

厚木中央公園で「緑のまつり」

家族で来場した景山里子さん(43)は「毎年、楽しみにしている。花の配布や体験教室など、気軽に参加できるのがうれしい」。息子の桐真くん(4)は「絵を描くストラップ作りが楽しかった」と笑顔を見せました。



来場者でにぎわうワークショップ

会場には、市の花であるサツキの盆栽や市内産の花を使った円形花壇を展示。写真撮影や花を楽しむ多くの人でにぎわいました。廃棄予定の素材を使用した花束やアクセサリー作りなどのワークショップ、こけ玉作りの教室も開かれ、子どもから大人まで夢中になって作品作りに取り組みました。

花と緑にちなんださまざまな催しが楽しめる「緑のまつり」を、5月9・10日の二日間にわたって厚木中央公園で開催しました。

プロ野球選手の食事を子どもたちに

学校給食で「ベ이스ターズ青星寮カレー」



会話を楽しみながらカレーを食べる生徒たち

市立小・中学校の給食で5月、横浜DeNAベイスターズの若手寮で食されている「青星寮カレー」を提供しました。

子どもたちにスポーツと食を通じた体づくりへの関心を高めてもらうと企画。選手たちの健康を支えるメニューのレシピを、栄養士が学校給食向けにアレンジしました。

給食時間の前には石田裕太郎投手がビデオメッセージで「選手たちもこのカレーをたくさん食べている。皆さんも食事を大切にして勉強や部活を頑張ってほしい」とエールを送りました。生徒たちは「タマネギの甘みやスパイスが効いていておいしい」「ごはんをたくさん食べて、水泳や受験勉強を頑張りたい」などと話しながら、口いっぱいカレーを頬張っていました。

みんなの力でまちを元気に

あつぎの市民活動

ボランティアなどの社会貢献活動を支援するため、市民活動団体の登録制度を導入しています。連載では健康・スポーツ・文化芸術・福祉など、さまざまな分野の市民活動団体を紹介していきます。

5 小鮎ボランティアの会

小鮎地区の自治会館など11カ所を拠点に、1985年から活動しています。地域の人々が集まり、交流できる場をつくるため、ゲームや体操などを楽しむミニデイサービスを中心に、演芸会の開催や福祉施設での手伝いなどを展開しています。

現在は88人が所属。「誰もが孤立することなく、心身共に健康な生活を送ってほしい」という願いの下、皆さんに地域に関わるきっかけの場を提供していきます。



健康体操なども開催

団体の詳細や問い合わせを希望する方は市民協働推進課☎225-2101へ。

団体の一覧はこちら



にぎわう会場で新鮮な野菜を購入

皆さんの姿がとても印象に残っています。家族のように会話を交わす皆さんの和やかな雰囲気心が温かくなりました。私もたくさん交流を楽しもううちに、つつい手つぶさがるほどの買い物をしてしまいました。こうした地域に根差した活動は人と人とのつながりを再認識させ、コミュニティの輪を広げてくれます。森の里地区の皆さんが交流の場を創り出し、地域の魅力を発信している姿は、まさに本市が掲げる「共創のまち」の体現といえます。

初夏の心地よい朝日の下、老若男女の活気あふれる声が響き渡ります。5月9日、森の里地区で開かれた「森もり市」にお邪魔しました。地域の皆さんが企画・運営する森もり市は、5月から12月まで若宮公園で開催される朝市です。地元の家や大学生が集まり、新鮮な地場産野菜や果物、手作りの弁当、ハンドメイド作品などを販売。季節に合わせたイベントも開催しています。会場では出店者との会話を楽しむ

持てるまちをつくってまいります。

タウンガイド

6月

日	月	火	水	木	金	土
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

7月

日	月	火	水	木	金	土
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

☑=申し込み ☎=問い合わせ ☎=電話番号
 ㊚=ファクス番号 ✉=Eメール HP=ホームページ
 📍=講座予約システム
 愛TV 6/1~ =市広報番組あつぎ愛テレビ
 市役所への郵便物は「〒243-8511〇〇課」が届きます。

あつぎのしゃしん。



「天を舞う大家族」

#4月20日撮影
 #鯉のぼり
 #若宮公園
 #niceatsugi
 市公式インスタ
 グラムで公開中



あつぎストリートフェス (市民協働提案事業)

6月20日、17時30分~19時30分。中町花の公園。路上ミュージシャンによるストリートライブ。無料。☑不要。☎文化魅力創造課☎225-2508。

救急救命講習会

■ 応急手当普通救命講習会(小児・乳児対象)

6月23日、9~12時。応急手当の重要性、心肺蘇生法、自動体外式除細動器(AED)の取り扱いなど。市内在住に勤在学の中中学生以上30人。☑6月1~9日に救急救命課☎223-9365へ。抽選。📍

■ 手話とモニターで学ぶ普通救命講習会

7月4日、9~12時。応急手当の重要性、心肺蘇生法、AEDの取り扱いなどを手話通訳、要約筆記、モニターで学ぶ。市内在住に勤在学の中中学生以上15人程度。(耳

に障がいのある方、聞こえづらい方も受講可)。

☎電話またはファクス、Eメールに氏名、電話番号を書き、6月1~9日に救急救命課☎223-9365・㊚223-8252・✉6550@city.atsugi.kanagawa.jpへ。抽選。📍

いずれも会場は消防本部。無料。

保護者セミナー 「こどもの心を支える」

7月3日、15時15分~16時45分。あつぎ市民交流プラザ。講話と情報交換。こどもの学校生活に不安がある保護者など20人。無料。☑6月1日~7月2日(託児希望者は6月18日まで)に青少年教育相談センター☎225-2520へ。先着順。

あつぎ夢プロジェクト参加者募集(市民協働提案事業)

7月25日、14時30分~15時30分。あつぎ市民交流プラザ。親子で落語を学ぶ。定員60人。☎電話また

市民協働提案事業

あつぎハーモニカフェスティバル

世代とジャンルを超えたハーモニカ奏者の共演が楽しめます。

日時 8月2日 15時30分~17時30分

会場 文化会館

内容 プロと学生の演奏、藤塚中学校吹奏楽部・タヒチダンス・地元シンガーとのハーモニカコラボレーション

定員 800人(全席自由席)

費用 3000円(2人まで入場可。高校生以下無料)

☎直接または電話で、6月1日から文化会館☎224-9999へ。先着順。



▲ハーモニカデュオBom×Boa



詳細はこちら

☎文化魅力創造課☎225-2508

ホット インターネットモニターからの意見を紹介



インターネットモニター募集

厚木市 インターネットモニター 検索

☎広報シティプロモーション課☎225-2043

5月1日号「広報あつぎ」を読んで

◆表紙のトマトがとてもおいしそう。夢未市で厚木産のトマトを購入したい/40代女性 ◆公式LINEの新機能を早速活用している。さらなる進化に期待したい/50代男性 ◆デジタル社会に対応できる力を育てる教育に興味を持った/20代女性 ◆企業による未来に残せる持続可能なまちづくり活動を知れた/60代男性 ◆自然歳時記が、市の鳥に指定されたエナガの特長を知る機会になった/30代女性

大切な家族を守る

無料

猫の防災セミナー

ボランティア団体「ののいちにゃんこのうち」から、災害時に猫を守る行動や知識を学べます。

日時 7月4日 13~15時

会場 あつぎ市民交流プラザ

内容 能登半島地震で、飼い主が猫の命を守った方法を学ぶ

対象 市内在住に勤在学の方40人

☎直接または電話で6月1日から生活環境課☎225-2750へ。先着順。



はファクス、Eメールに氏名、電話番号を書き、7月3日までにあつぎ夢プロジェクト事務局☎225-3500・㊚294-0888・✉Atsugi_yume_pro@googlegroups.comへ。抽選。☎生涯学習課☎225-2512。

夏休みボランティア体験の参加者募集

福祉や子育て、美化活動などのボランティア参加者を募集します。

《対象》市内在住に学の中中学生以上。☑中学校や公民館、市HPなどにある申込書を、直接または郵送、ファクス、Eメールで7月3日(必着)までに〒243-8511市民協働推進課☎225-2101・㊚221-0260・✉2800@city.atsugi.kanagawa.jpへ。市HPからも申し込み可。

介護保険料の納入通知書を6月中旬に発送

税制改正で住民税が非課税となる場合でも、本年度は介護保険料の算定が課税とみなされる場合があります。災害や生活困窮などで支払いが困難な場合は、相談してください。

《特別徴収》年金受給額が年額18万円以上の方。年金の定期支払い(年6回)の際に差し引き(老齢福祉年金を除く)。

《普通徴収》年金受給額が年額18万円未満の方。納付書または口座振替で納付。年度途中で65歳になった方や転入した方などは、特別徴収に切り替わるまで普通徴収。☎介護福祉課☎225-2393。

国民健康保険料の納入通知書を6月中旬に発送

会社などの健康保険に加入した方は、脱退手続きをしてください。

☎国保年金課☎225-2123。

6月1日は「景観の日」

目に見える眺めだけでなく、印象も景観の大切な要素です。身近な景観を改めて考え、次世代につなげましょう。☎都市計画課☎225-2401。

本厚木駅北口の新たな公共空間に関するアンケート

本厚木駅北口の生まれ変わりに向けたアンケートを実施します。

《期間》6月1~15日 《対象》本厚木駅周辺利用者 《回答方法》市HPまたは公民館などにあるアンケート用紙で回答。用紙の配架場所は市HPに掲載。☎市街地整備課☎225-2851。

みんなの声でまちをつくる

《パブリックコメント》市立中学校部活動地域展開推進計画の策定

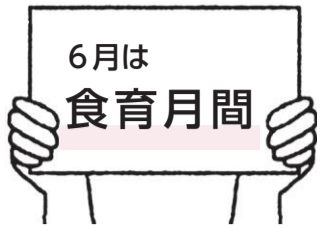
《閲覧期間》6月1日~7月1日 《閲覧場所》教育指導課、スポーツ魅力創造課、文化魅力創造課、市政情報コーナー、公民館、本厚木・愛甲石田駅連絡所、保健福祉センター、中央図書館、あつぎ市民交流プラザ、南毛利・東町・猿ヶ島スポーツセンター、荻野運動公園、子育て支援センター、ぼうさいの丘公園、ふれあいプラザ、あつぎ郷土博物館、子ども科学館、あつぎセーフティーステーション番屋、市HP《応募方法》閲覧場所にある用紙に掲載。☎教育指導課☎225-2980。

厚木市 市民参加

検索

編集後記

森里やあつぎこどもの森クラブから話を聞き、これまで「自然はそのままがよい」と思っていたのですが、人の手を加えつつ見守り続けることで、環境が保たれていることを知りました。今ある自然環境を当たり前と思わず、大切にしていきたいと改めて感じました。人の暮らしのそばには、多くの生き物が息づいています。一人でも多くの方が、厚木の自然や生き物を考えるきっかけになればうれしいです/佐々木



食と向き合おう

私たちの心と体を育む「食」。自身や家族の食生活を見直してみませんか。
健康医療課 ☎225-2201

「食べるって楽しい！」



食育とは

さまざまな経験を通じ、「食」に関する知識を身に付け、必要な栄養や食材を選ぶ力を育むことです。健康的な食習慣を培い、生涯にわたって「食べる力」＝「生きる力」を育みましょう。

家庭でできる食育！

- ・ 食べ過ぎに注意し、1日3食をバランスよく食べる
- ・ 家族や仲間と楽しく食事をする
- ・ しっかりとかんで食べる
- ・ 旬の食材で料理を作る



パネル展示を開催

食育月間に合わせ、食育に関するパネル展示を開催します。

日時 6月1～30日 会場 保健福祉センター



詳細はこちら

栄養のバランスを大切に

管理栄養士 山田夕紀



栄養素は単独では効果を十分に発揮できず、複数が組み合わせることで健康を支えてくれます。丼飯や麺料理の一皿でも、上手に食材を選べば「主食・主菜・副菜」のバランスを取れます。時間がない時も、市販品や冷凍食品を上手に活用したり、一品を追加したりするなどの工夫で、健康的な食事ができます。できることから始め、無理なく栄養バランスを整えましょう。

あつきミュージックフェスティバル

新人シンガー発掘オーディション

参加者募集

最終選考に残った4人には、音楽スクールでの本格指導(約2カ月)を実施。優勝者はメジャーレコード会社から配信デビューし、11月29日に開催されるコンサートに出演できます。
文化魅力創造課 ☎225-2508

対象 ①市内在住在勤在学 ②市内の学校を卒業 ③活動拠点が市内

のいずれかに該当する中学生から30歳までの個人またはメンバーの半数以上が条件を満たすグループ(プロダクションと未契約。未成年者は保護者の同意署名が必要)。

参加費 1000円(高校生以下500円)

市役所や市HPにある応募用紙、音源1曲分(CD-R)、参加費を直接または現金書留で6月1～30日(必着)に〒243-8511文化魅力創造課へ。音源はあつきミュージックフェスティバル公式HPからも提出可。1次審査の合格者は7月19日の2次審査に出場。

自然歳時記

● オオルリ ●
ヒタキ科

全長16.5センチ、重さ20～27グラムほど。ウグイス、コマドリと共に日本三鳴鳥の一種。青紫色の頭と背中、黒色の顔と胸、白色の腹、瑠璃色の姿が美しい鳥／七沢・不動尻の林縁で見つけた。
写真・文／吉田文雄



「ピーリーリー」。高いこずえから、美しい鳴き声が聞こえてきた。

双眼鏡で見つけると、小さな虫を追いかけてオオルリが飛んできた。瑠璃色の美しい夏鳥だ。

急斜面の岩場に巣を作り、巣材はトヤマシノブゴケを使う。コケは日本文化に定着し、京都の西芳寺

は苔寺として有名だ。箱根美術館の庭園も大勢に親しまれている。

鳥たちは、コケに保温作用と抗菌作用があることを自然と理解しているのかもしれない。賢い生き物である。
トヤマシノブゴケ



厚木市の人口
(5月1日現在)

世帯数 10万7929世帯 (前月比344世帯増)

人口 22万2313人 (前月比260人増) 男11万4608人・女10万7705人